

項目	目標達成の手段	自己評価			総合評価	結果の考察・分析及び改善策等	学校関係者評価	学校関係者評価コメント
		評価						
つながる力の育成	①発表する場の設定、充実	児童	3. 8	3. 5	3. 5	○ 全体の傾向として、人前で自分の考えを発表することが苦手であったが、日々の授業や行事等で実践を積み、はきはきと発表できる場面が多く見られるようになった。	3. 6	○ 子ども達それぞれに積極的に参加するように促し、またその機会を設定していた。 ○ 他校、又は環境の違う地域との交流が必要だと思う。 ○ 大河内っ子は皆、優しさがある半面、自己アピールが苦手、不得手である子が多い印象である。少人数であるから、発表する場や機会も多いので、何度も繰り返すことで人前での発言やアピール力が更についてくれるとよいと思う。
		保護者	3. 0					
		教職員	3. 7					
	②道徳教育や児童指導、人権教育の充実	児童	4. 0	3. 8				
		保護者	3. 7					
		教職員	3. 6					
	③読書活動の推進	児童	3. 4	3. 0		○ 教職員、特に保護者の評価が高くなかった。家庭での読書推進を図るために、よい本と意図的に出会わせ、静かな環境で本と向き合える機会を作っていきたい。		
		保護者	2. 6					
教職員		3. 0						
④学校間連携や豊かな体験活動の実践	児童	3. 9	3. 7	○ 九州大学宮崎演習林施設を活用しての宿泊学習や修学旅行、集団宿泊学習が実施できた。また、集合学習も計画通り実施することができ、村内の学校との交流も図れた。釣りや稲作の栽培活動等の豊かな体験活動も行うことができた。				
	保護者	3. 5						
	教職員	3. 9						
学び力の育成	①「分かった・できた」と実感できる授業の実践	児童	3. 8	3. 4	3. 5	○ 宮崎県が示している「ひなたの学び」を意識した授業を実践している。今後も個別最適化の学びと協動的な学びを連動させながら、学力の向上に努めていく。ユニット学習は道徳科で取り組んだ。椎葉村学は地域の人材を活用し、積極的に取り組むことができた。	3. 8	○ 授業等、新しい教育活動への積極的な取組がなされていた。 ○ 個別に熱心に取り組む様子が見えていた。 ○ タブレットを使った学校間の授業に工夫が見られる。 ○ 人数が少ないからこそ個別指導は十分に行き届いていると思う。複式学級で困難なこともあるが、先生方が協力し合い、カバーやフォローしながら対応してくださり、指導体制も安心して見ていられた。あとは子ども達それぞれのやる気や向上心が高まることを願うばかりである。
		保護者	3. 2					
		教職員	3. 7					
	②学習規律の徹底と学習習慣の定着	児童	3. 7	3. 5				
		保護者	3. 2					
		教職員	3. 9					
	③複式解消や個別指導の充実	児童	3. 6	3. 7		○ 算数や理科で複式指導の解消を行い、基礎学力の定着を図った。また、教育アプリ「キュビナ」を用いて、個別最適化の指導を行うことができた。JAGA ネットについてはキュビナの活用だけで時間がかかるので、積極的な活用には至っていない。		
		保護者	3. 7					
		教職員	3. 9					
	④特別支援教育の充実	児童	3. 7	3. 5		○ 毎月の校内委員会を通して、職員の特別支援教育に関する理解や指導力の向上を図ることができた。また、オンラインによる特別支援教育研修（エリア研）は全員で参加し、特別支援教育に関する学びを積極的行った。		
		保護者	3. 4					
		教職員	3. 6					
たくましい心と体の育成	①体力向上プランの完全実施	児童	4. 0	3. 5	3. 6	○ 体力向上プランの完全実施に向けて、導入時のサーキットトレーニングや休み時間等に活用できる遊具を使った運動の紹介などを行った。親子体力テストも実施し、意識の向上を図った。（令和6年度県体力づくり優良校表彰を受けた。）	3. 6	○ コロナ禍からコロナが明けて、年中感染症が流行しているような状態である。少人数での学校生活で感染が拡がると次々に体調不良になるので、各個人だけではなく、学校側としても感染対策を取り入れてもらいたい。 ○ 目標をもたせ、取組が見えていた。
		保護者	3. 3					
		教職員	3. 4					
	②健康教育の充実	児童	4. 0	3. 7				
		保護者	3. 5					
		教職員	3. 9					
	③食に関する指導の充実	児童	4. 0	3. 6		○ 児童自ら食事のマナーや偏食等に気を付けた食事ができるようになっている。「弁当の日」の取組も計画的に実施することができた。食物アレルギーについては、全職員で研修を行い、共通理解を図りながら対応することができ、事故等もなかった。		
		保護者	3. 3					
		教職員	4. 0					
	④危険予知能力や危険回避能力の育成	児童	4. 0	3. 6		○ 避難訓練や土砂災害防止教室等、地域の方にも協力いただき、計画的に実施できた。これらの活動を通して、災害時における「自分の命は自分で守る」という危険予知と危険回避能力を身に付けることの大切さについて、意識付けをすることができた。		
		保護者	3. 0					
		教職員	3. 7					
家庭・地域との連携・協働	①地域を生かした学習の充実	児童	3. 9	4. 0	4. 0	○ 村教育委員会が推進する「椎葉村学」を軸として、大河内地区の方々の協力を得ながら様々な学習を行うことができた。また、夏には教職員による大河内視察研修を行い、地域素材の教材化について実際に見学したり、体験したりすることで深く知ることができた。	3. 6	○ 変わらず宿泊学習や伝統、文化に参加する様子が見えていた。 ○ （地域の）支援活動のアイデアについてアンケートをしてみてもよいのではないだろうか。 ○ 地域の連携はへき地であるからこそ、しっかりできていると思う。学校側も地域側もお互いが寄り添い、歩み寄りながら二人三脚で子ども達を見守っていると感じる。今後も協同して子ども達を見守り続けたい。
		保護者	4. 0					
		教職員	4. 0					
	②学校と家庭・地域の一体活動の充実	児童	4. 0	4. 0				
		保護者	4. 0					
		教職員	4. 0					
	③地域の学校支援活動の充実	児童	3. 8	3. 9		○ 運動会を始め、米作りやクリスマスツリー作り、読み聞かせなど、様々な行事で地域の方から温かいご支援を頂いた。		
		保護者	4. 0					
		教職員	3. 9					
	④地域から学校運営への参画促進	児童	4. 0	4. 0		○ 学校運営協議会を計画的に実施し、学校運営に関しても地域の方の意見を取り入れながら行うことができた。次年度も、学校運営協議会を核として地域の方々の参画意識を高めながら、学校運営を進めていきたい。		
		保護者	4. 0					
		教職員	3. 9					

【その他のご意見・ご感想】

○ 大河内小のためにいつもありがとうございます。現状には何も意見はありませんが、児童数の減少は本当に大変だと思います。今、教育委員会が取り組んでいる家族移住型山村留学、住居、就労まで世話をする条件付の募集が始まります。教育委員会と公民館、小学校が連携して地区の空き家の確認、持ち主の確認、移住者の仕事の世話、地区にどんな仕事があるかの確認など、少しでも準備していくのも今後を考えると大切だと思います。このような状況の中、先生方にはさらに余計な苦勞をおかけするかと思いますが、他の地区より先行して準備をしていくことが優先して優遇してもらえることにつながると思います。どうぞよろしくお願いします。

